

宮前区ドッジビー大会ルール

このルールは、日本ドッジビー協会の競技規則をもとに、宮前区ドッジビー大会用に作ったものです。基本的にはドッジボールのルールと変わりありません。

1 チーム編成

- (1) チーム編成はプレイヤー10人～15人とする。
他に監督1人を置くことができる。
- (2) プレイヤーからキャプテンを決め、ゼッケン1をつける。

2 試合方法

- (1) 試合は1チーム10人で行う。
- (2) 試合開始時の外野のプレイヤー人数は3人とする。試合開始後、外野のプレイヤー人数は1人以上とする。
- (3) 試合は、前半・後半の2セット制とする。
- (4) 1セットの時間、及びセット間の休憩の時間は大会毎に主催者が定める。
- (5) 勝敗は、前半・後半各セット終了時の、内野に残ったプレイヤー数を合計し、多い方のチームを勝ちとする。
- (6) (5)で同数となった場合は、次の通りとする。
 - ① 地区大会または予選リーグを行う場合、同数の試合は引き分けとする。
 - ② 決勝トーナメントの試合は2分間の延長を行う。
延長戦を行い、勝敗が決まらない場合、勝敗が決まるまで2分間の延長戦を繰り返す。
- (7) セット終了前に、一方のチームの内野プレイヤーが全員アウトとなった場合は、その時点でそのセットを終了する。
- (8) 前半・後半でコートチェンジを行う。
- (9) 予選終了時点で、勝点が同じ場合は、①直接対決の結果、②得失点差、③総得点
④5人ずつによるジャンケンによって順位を決定する。

※(9)については予選を行った場合に限る

3 ルール

(1) ゲームの開始

両チームの代表者がジャンケンをし、勝ったほうがディスクか陣地を選ぶ。
ゲームは審判の合図によって始める。

(2) アウトとなる場合

次の場合、内野プレイヤーはアウトとなり、外野に出なければならない。

- ・ディスクをキャッチできずに、ディスクが身体・ユニフォームなどに触れた後、地面に落ちたとき。
- ・ディスクに触れた後、相手チームのプレイヤーにファールなくキャッチされるか触られたとき。

* 1回のスローで複数の内野プレイヤーが連続でディスクに触れた場合は、それらのプレイヤーは全てアウトとなります。

(3) アウトとならない場合

内野プレイヤーが一度取り損ねたディスクを、ノーバウンドで本人または味方がファールなくキャッチしたときはアウトとならない。また、ディスクを投げる人がファールをしていたときもアウトにならない。

(4) 内野へ入る権利と消滅

外野プレイヤー(最初から外野のプレイヤーも含む)は、相手の内野プレイヤーをアウトにすることで、自分の内野に入ることができる。
内野に入る場合は、相手のプレイヤーをアウトにした後、直ちに入らないと、内野に入る権利を失う。

(5)ファール

ファールが発生した場合、ディスクは相手チームに移動する。

ファールを犯すと同時に行ったプレーの結果、ディスクが相手に移動していた場合、プレーは続行される。
ファールを犯したチームがそのままディスクを持っていた場合、プレーを一時中断し、ディスクの所有権を移動させた後、プレーを再開させる。

- ①内野同士のパスは禁止。外野同士のパスは必ずコート内のいずれかの2本のライン上を通過するように投げなければならない。審判により相手内野プレイヤーにディスクが渡り再開する。
- ②オーバーラインスロー→ディスクを持ったプレイヤーが投げるときにラインを踏んだり、越したりしたとき。投げた後の勢いでラインを踏んだり、越したりしたときや、ジャンプして投げた後も同じ。
審判により相手内野プレイヤーにディスクが渡り再開する。
- ③オーバーラインキャッチ→ディスクをキャッチするときラインを踏んだり、越したりしたとき。
走りながらキャッチした時、ジャンプして空中でキャッチした後に着地した時も同じ。
審判により相手内野プレイヤーにディスクが渡り再開する。
- ④オーバーコート→自分がいるコート外にあるディスクに触れたとき。ライン上にある場合も同じ。
ただし、空中にある場合は含まれない。相手コートのディスクに触れた場合、自陣コート(自分がいるコート外)のディスクに触れた場合は、審判により相手内野プレイヤーにディスクが渡り再開する。
- ⑤5秒ルール→内外野に関係なく、ディスクをキャッチしてから5秒以内に投げなければならない。
審判により相手内野プレイヤーにディスクが渡り再開する。
- ⑥反則スロー→ディスクを立てて回転させたスローは禁止。
審判により相手内野プレイヤーにディスクが渡り再開する。

4 その他

(1)登録したチーム以外での参加はできない。

(2)次の場合は不戦敗とする。

①試合開始時間に遅れたとき

②プレイヤーが大会参加資格に違反して出場したことが発覚したとき。

ただし、試合終了までに発覚しない場合は、その試合は成立するものとする。

(3)プレイヤーの交代は、各セット間に行うものとし、ゲーム中は認めない。

ただし、ゲーム中でも負傷者が出るなどやむを得ない場合に限り、主審の許可を得て交代できる。

(4)コートの大きさは会場に応じて主催者が決める。

(5)ベンチにはプレイヤーと監督(1人)、交代要員以外は入れないものとする。

(6)プレイヤーは素手とする。

*グローブ、滑り止めなどの使用は禁止。ただし、指へのテーピングは可とする。

(7)審判は次の場合、プレイを中断し、時計を止めることができる。

①負傷者が出たとき。

②プレイをするにあたって、危険な状態になったとき。

③その他、必要と認めたとき。

(8)その他、このルールに記載されていないことが起きた場合は、主審が判断するものとし、プレイヤー及び監督はそれに従う。

平成26年10月20日 改定
平成27年 9月17日 改定
令和 元年11月20日 改定
令和 5年 5月17日 改定
令和 5年 9月 1日 改定
令和 7年 3月 8日 改定